

UTA会 だより



第2回U T A会風景

■ 幹事長の挨拶

U T A会が発足して一年が経ちました。同窓会としてのU T A会、如何でしたでしょうか。毎日のように届けられるホームページ、そして、一人ひとりに届く本や冊子等、どれもこれも何かすごい計らいの中にあることを感じます。

当初、年会費を伴うことに小さな心を使いましたが、年会費の一万円の大きな働きと価値に、今は私自身も驚いています。

すごい勉強をしているんですね。まだまだ学びが分かったとは言えませんが、その過程にある私達は幸せだと思います。

体験談を寄稿していただいた方、発表された方、本当にありがとうございました。体験談を聞かれ、また、読まれた方の中に、「励まされた、勇気づけられた、気付かされた」と言われる方々も多く、こんな嬉しいことはありません。私自身も長い間学んだ方の体験談を感動、感動で聞き入りました。それぞれの体験が他の方に伝わって、こうして一人の気付きが伝達されていく

のを感じさせてもらっています。そのひとつ『U T A会だより』の効果も嬉しい限りです。今では体験のない人はいないですね。同窓会ですので、今年も、一人ひとりの参加を心から希望しています。ご自分だけの体験で終わらず、それが活字になることで、また発表することで、ともに喜び、ともに学べる機会に、チャレンジしていただきたいと願っています。

四月から新年度が始まりました。本年度は、五月、九月、十二月の三回のU T A会が予定されています。また、「宇宙の風」等の冊子も、お手元に届けられます。すごいことです。

本年度も、どうぞ、よろしく
お願いいたします。 久保 明子

■第二回U T A 会の開催状況

前回、第一回U T A 会の開催から四ヶ月、二〇〇九年十二月二十日から二泊三日で、第二回U T A 会が開催されました。

今回も前回同様、七百三十名を越える多くの方々の参加がありました。

今回は、四種類のU T A 会資料が配られましたが、その資料の作成をお手伝いしていて、どんどん増えていく資料を見ていると、とても大切な時期に来ているんだということを、ひしひしと感じました。

初日の田池先生の挨拶では、「今回のU T A 会のテーマは、『あなたの宇宙に心を向けていきましよう』と

いうことです。これは、新しい人も古い人も同じです。古い人もできていません」との話に続き、「これから二五〇年経っても、三〇〇年経ってもずっとあるテーマは、『自己確立』、そして、『次元移行』です」との話がありました。

続いてまた、田池先生のホームページに掲載された、U T A 会に参加する前の確認事項、「消えてなくなるものと消えてなくならないもの」についての説明がありました。

田池先生の挨拶に続いて行われた体験発表は、今回は、大阪の小栗満里子さんでした。

自分の母親と同居したときのことや、自分の出産を通しての母親の反省を話していました。

体験発表に続いては、まず、U T A 会資料を使つての田池先生の話が

あり、それから、休憩を挟んで現象の時間が始まりました。田池先生が会場を回りながら、指さしを行っていました。

そして、お母さんの温もりがわかったけれども、また、瞑想をしてピタッと田池留吉に合わせているけれども、それでも私は苦しいという人は前に出てくださいということ、二名の方が前に出られ、その方々を通して、波動の勉強がありました。

また、最近自分は変わってきたなと思う方は前に出てくださいということで、数名の方が前に出られました。

それから、一日目の最後は、宇宙に向けての瞑想がありました。

二日目の午前中は、瞑想・親睦等の時間です。今回もたくさんの方が、

会場の中で反省や瞑想を行っていました。

午後は、波動の勉強ですが、最初に復習を兼ねて、UTAA会資料を使つての話がありました。

田池先生の話は、「いつも言っておりますが、波動です。私は今、言葉を発していますが、これは波動なんです。皆さんは耳で聞いて頭を回して理解しようとするんですが、私は皆さんの意識に働きかけられます。ただ黙っていても何なので、一応しゃべっているだけなんです。そういうつもりで聞いてください」との話から始まりました。

続いて、波動の勉強がありました。アメリカの白石さん、ジェニーさんが指名されたり、他数名の方が前に出られていましたが、女性の方ばかりでした。それもあつてか、休憩の

あとは、今度は男性ということ、阿部さんが指名されました。それに続いて、数名の方が出られています。

そのあとは、宇宙に向ける瞑想がありました。みんなで行う瞑想や、宇宙に向いているように向いていないのではないかと思う人、一列目、二列目の男性の方で前に出たい人ということ、その方たちと一緒にいう瞑想で、二日目が終わりました。

三日目の午前中は、田池先生の「皆さんやりましたか、箸を取るたびに思えよ『次元移行』……」という話に続き、瞑想をしていて苦しいという希望の方が前に出て、波動の勉強がありました。

午前中の最後は「ふるさと」の歌に合わせて喜びを表す現象がありま

した。

午後の時間は、自由時間です。二時半までは会場を使うことができませんので、そこで反省、瞑想をされている方もありましたが、帰られる方も多く見受けられました。

前回、正会員の方にお配りしました音声ファイルのCDは、今回からはUTAA会（前日泊のみは除く）に宿泊で参加された大人の方へ、お配りすることに更改いたしました。

ぜひ、その音声ファイルのCDを、皆様の勉強のお役に立てただければと思います。

多くの皆様のご参加、ありがとうございました。

■体験談

母と暮らして

シリング まち子

そびえ立ってきた私自身を振り返り、今、本当に自分の愚かさを感じています。母を見下し、見下げ、どうしようもない自分でした。あんな母親から私が生まれてきたこと自体が信じられなかった。どうして私はあんな母親から生まれてきたのか。こんなに素晴らしい私なのに。その思いが私のエネルギーとなつて今世この肉を誇る方向に使つてまいりました。(本人の意識より)

私はずっと母から逃げるために生きてきました。少しでも母から離れ

たところに行きたい。少しでも母のことを忘れられる場所に行きたい。何度も何度も母から逃げ出しました。

私が外国にいる間に亡くなつてくれれば、自分の中で良い思い出だけをつなぎ合わせて、きれいな母親像を作り出すことができる。そしたら、お母さんの温もりが分かるかもしれない。そんな浅はかな考えを持っていました。

私の期待とは裏腹に、母は、二年前の暮れに肺炎にかかったことから始まり、胸にできた腫瘍の摘出手術、その後の治療の中で三度も危篤状態になりながらも、なんとか回復をしたのでした。そして、千葉の我が家にやってきました。お互いが自分の思いを抑えている間はまだよかったです。それが、それは、そう長くは続きません。

春が来て暖かくなり、母も外に出ているようなことをするようになって、いよいよ本番が始まりました。とても常識では考えられないようなことを次から次へとするので。

私の怒りは日に日に大きくなり、庭の花の咲いていない草花を全部むしり取られた頃には、自分でも抑えられないほどヒステリックな状態になつてしまい、ついには母に手をあげてしまったのです。それでも怒りが収まることはなく、とうとう身体に症状が出てきました。下痢が一月も止まらないのです。お医者さんにいただいた薬は全く効き目がありません。食事摂ることもままならず、点滴を受けながら家事を続けていました。

そして、立つこともできなくなり入院することになりました。検査を

してくださった医師は、その病気が潰瘍性大腸炎かいようせいだいちょうえんという病気で、自分の出す免疫体が自分の腸を攻撃していくという説明をしてくれました。

意識が病気を作り出すということ、自分では十分に分かっていると思っていました。乳がんを体験したことからこの手の現象はもつと簡単にクリアできると自負していました。

でも、今度は何一つ自分の思い通りにならないのです。食べることもできず、下痢が続くので身体はどんどんと痩せてきて、筋肉も落ちてきて、歩くことさえ不自由をするのです。

初めて、「このままでは死んでしまおう」と思いました。病院にいた間は、ステロイドの注射をただじつと待つだけです。不快な痛みの中で丸くなって、痛みがなくなるのを待つことし

かできないのです。セミナーのことも田池留吉のことも、もちろん夫や犬のこともなんにも考えられないのです。

私は自分のいる世界に愕然がくぜんとしました。今、肉をなくしたら、私の帰る世界は、こんな世界なんだと思いました。

とりあえずの処置を終え、また日常生活に戻りました。母は私の体調などお構いなしで、また次から次へといろんなことをやってくれます。そして、私の中から出てくるのは怒り、怒り、怒り。あまりに醜い自分の姿にこんな状態ではとてもセミナーになんて行けないと思うようになる始末。気管切開をしている母を泊まりがけで預かってくれるところもなかなか見つからず、夏の同窓会もまた行けませんでした。そして

十二月の同窓会の前にやつとのこと、引き受けてくれる施設が見つかり参加することになりました。

私は醜い自分とセミナーに行こうと思いました。身体を会場に運んだことで、曲がりなりにも心も田池留吉に向いていきます。夜、眠ろうとしていると「そんなあなたでいいのですよ」と言ってもらっているように感じました。涙が出てきました。同時に私が忌み嫌っていたのは母ではなく、この醜い自分だったと思えました。怒り狂い、ヒステリックに叫ぶ自分が嫌だったのです。そんな自分を見たくなかった。だから私は母から逃げたのです。

母の行動が、私の醜いところをこれでもかこれでもかと思せつけるのです。気付きなさい。自分のエネルギーに気付きなさいと愚かな姿を私

に見せてくれていたのです。

日常生活に戻ればまた癖が出て、口うるさくしてしまうと思います。それでも何かがほんの少し変わっている、そう思えたのです。田池留吉に出会うことがなければ、私は確実に自滅していました。自分のエネルギーで自分を殺していました。呪ってきた人生を、全く違う目で見ている自分が確かにいます。

私の生まれ育った家は、全部燃やしてしまいましたが、どういうわけか手元には写真が何枚か残っています。母の懐に冷えないようにと足を入れて、抱っこしてもらっている写真です。

お母さんが好きだった自分を思い出します。心がとても安らぎます。あとどれだけ時間が残されているか

分りませんが、最後まで心を見ていきます。ありがとうございます。

姑と暮した体験

鈴木 和子

姑と暮した時間は、私にとって自分の中のアマテラスのエネルギーに出会い、そのエネルギーのままに生き続けてきた自分をしっかりと教えていただきました。

自分の心癖、自分の中で自分の思いを膨らませ、爆発しなければ収まらない。そんな自分と何度も出会いながら、怒りでしか自分の思いを出すことができない、怒りのエネルギーを自ら心の中に作り出していく自分の心癖、その心癖に気が付いても、姑の存在があるからだ、直ぐに姑

に責任を転嫁していく方向に自分を向けてしまう。心を外に向けるのです。ターゲットはいつも目の前の姑と夫でした。

絶対に譲れない私ばかり、自分ばかりが犠牲者という思いが強いのです。心の中では姑の死を待ち続けている自分を否定しながら、偽善者を演じ続けました。年齢の自覚がない姑、こんな日々がいつまで続く、冷たくて厳しい思いを出し続けました。そんな時ほど姑から、「死を恐れてはいない、覚悟はできている、延命治療は絶対に望まない」、息子に対して厳しく言い切るのです。その時の冷たくて厳しい目が私だったなんて、なかなか認めることができませんでした。あれほどではない、私のほうが優しい、老いた姑と自分をどれほど心の中で比較していたか。今、振

り返れば、自分の中の比較競争の他力のエネルギーの中にドツプリの私ばかりです。姑のその言葉を聞くと、びに私の心の中に恐怖が溢れてくる。死ぬのが怖い、私は死ぬのがとても怖い。死ぬという言葉を聞くだけで恐怖でいっぱいになる。小さい時のことを思い出す。死を恐怖する自分の心としっかりと真向かいにならない間は、私の肉は更なる偽善者を演じてしまう。姑のご機嫌を取っている自分に腹が立つ。そうになると、攻撃の心は夫に向いていく。そんな時ほど、夫から返ってくる言葉はきつい。母親のためには金に糸目は付けないと、一刀両断、心の中は互いにその繰り返しでした。それでも肉は日々の生活をしていかなければならない。互いに耐えて忍んで我慢して、本当に自分に冷たかったです。

素直になれない三人組、可愛くない三人組、優しくなれない三人組、三つ巴さんまの闘いを繰り返してきた意識、自分だけが絶対に正しくて間違っていないくて立派、自分だけが最高に素晴らしい、エネルギーは同じ、同じが嫌でした。私は同じが嫌だった。でも、同じでした。やつと素直に認めることができます。

私もチャネラー、夫もチャネラー、姑もチャネラー、三人が横綱です。神を掲げて闘い狂った。自分の中のアマテラスを互いに出し合った私達でした。怒りの底に流れる寂しい心を、孤独な心を、隠し続けてきた。素直でなかった。そのように思いますが。孤独の中に一人閉じこもって闘い続けた私の中のアマテラス、己を誇ることでできなくなった狂気を

抱えて生き続けてきた私の現実の姿、私達は同じだった。寂しい、空しい、孤独、誰も信じられない、誰も私の心をつかってくれない。その思いを抱えて生き続けてきた意識、アマテラスも同じでした。

自分のエネルギーをしっかりと受け止めていこうとする優しい思いが私にはなかったのです。今なら、そんな自分を素直に認めることができます。

姑が亡くなる数日前、珍しく夫に呼ばれた。前日、介護のことで夫婦で話し合ったことがあった。夫が自分は母親にできる限りのことをしてきた。こんなにも大変な母親であることが、一緒に暮らすことよって分からせてもらった。自分の思いはすごい思いばかり、自分の母親と一

緒に暮らした人でなければ、こんな思いは分かるはずがない。介護について、どれほど素晴らしい本を書いたとしても、二十四時間、自分の母親の介護をした人の話しか自分は信じられない。自分の心など誰にもわからない。

それまでは静かに聞いていた私でした。でも、夫の言葉を聞いた瞬間に、私の体が吹き飛ばされて目の前が真っ赤になった。恐怖でいっぱいになった。死ね死ね死ね死ねー、私はどうなる、私はどうなる。悔しくて、悔しくて、毎日、毎日、毎日、死ぬ死ぬ死ぬ死ぬ、その言葉ばかりを聞かされた。死にたければ死ねー、今直ぐに死ね死ね死ね死ね死ねー。私は我慢してきた。死ぬことが怖い、死にたければ死ねー。夫と姑に向かって爆発した。肉体細

胞がぶつ飛んだ。体が木っ端みじんに吹き飛んだ。怒り、怒り、怒り、凄まじい怒り、凄まじいエネルギー、後で気が付いた。死に脅え、死を恐怖し、死を怒る私ばかり、この思いでお母さんも田池留吉も自分自身をも切り刻んでいたのです。母親の反省、他力の反省もしていない、そんな私が自己供養などできるはずがありませんでした。私は自分の中のエネルギーを知ることが怖かった。無知なまま長い間学んでいたという現実を知らされました。

自分の思いを受け止めることができないう私、私には優しさが無い、何も無い。外ばかり見て、指摘してただけ、心の中でグチャグチャ言っていただけ、体から力が抜けていった。心の中が空っぽになった。醜い姿化けの皮が剥がれた。ホツとした。

姑も夫も私の応援団だった。この二人が二十四時間体制で、私の地獄の底の底の底の叫びを引き出してくれた。私は間違っていた。私はエネルギー、これでいい、これでよかったです。ホツとした。心からホツとした。私は小さい時から意地悪だった。人の持っている物がいつもよく見えて、いつも一番に自分の欲しいものを手に入れていた。そんなことが心に浮かんできた。そんな中でホツとして力が抜けていくのを感じていた。

私はありがたいの言葉を、心からの感謝の思いを、一度でいいから姑から聞きたかった。私は少しは優しくなってきたと自分では思っていた。とんでもなかった。言葉でさえも反発できなくなってしまった姑に対し

て、自分の思いを叫び、狂った。私には自分の思いを受け止めることができない、私の中に温もりも優しさも何もない。心が空っぽ、優しさが何もないことを自分で確認したのです。

醜い自分に出会ってから、夫に何も望むものがなくなっていた。これからは夫の思う通りでいい、姑の思う通りでいい、そんな思いがはつきりと中から出てきた。心が落ち着いた。今までの私は着飾っていただけ、中はポロポロの偽物だった。すごく肉で頑張った。全部、偽物の優しさで頑張っていただけ、凄まじいエネルギーの自分を認めていこう。エネルギーが私だった。肉を見ていた。私は私の肉を信じていた。

寝た切りの姑の介護を今まで通りしていこうと思った。夫も姑も何も

言わないで、今まで通りに接してくれた。嬉しかった。凄まじいエネルギーで日々介護をしていたのだから、殺されると言われても、何を誤解されても当然だった。波動が仕事をすする。本当にその通りでした。私は自分がエネルギーであることを信じていなかった。

私のエネルギーを姑も夫も感じていたのだと思います。私が自分の中のエネルギーを、しっかりと自分で受け止めていけない限り、私は宇宙のもくず、そんな思いを感じました。お母さんの反省も他力の反省も欲の中でやり続けてきた反省でした。お母さんの温もりを知らない私の心には、自分の中から一瞬にして突き上げてくる自分の凄まじいエネルギーを受け止めていくことなどできないことを、姑と夫を通して教えていた

できました。自分の中から突き上げてきた思いを、自分で受け止めていける循環の中に私達は生きていました。肉があるからそれができる。それができなければこのエネルギーのまままで死んでいく。このエネルギーの中に沈んでいく。宇宙のもくずとなつて彷徨さまよい続ける意識、そんな自分を感じました。本当にそのような感じてきました。

振り返れば離婚されても仕方がない、姑に手をかけなかつたことが不思議なくらい。自分の凄まじいエネルギーを感じて納得です。嫌がらせの言葉を夫にどれほど突きつけてきたか、目には目を、歯には歯を、復讐を重ね続けてきた自分をしっかりと受け止めていきます。

姑と暮して自分の意識の世界の

現実をしつかりと確認させていただけたこと、今は、姑にありがとうの思いです。自分のエネルギーを知ることが本当に大切でした。肉に責任転嫁せずに、肉に逃げずに、これから自分をしつかりと受け止めていこう。真っ黒な自分ほど真実を知りたい、正しい軌道からずれていることを教えてくれました。闇のチャネラー、自分で望んできたのに、自分の都合が悪くなれば嫌って切り捨ててきた私です。今は、愛おしい思いで闇のチャネラーの自分を抱きしめていこうと、嬉しい思いが溢れてきます。

私には三人の子供達がいます。生れた時に、泣いている時に、抱きしめた私を思い出します。母がしてくれたことでした。私はその時の思いで自分を抱きしめていけばいい。肉

的だけれど、その時の感覚、感触を瞑想の中で思い出しています。嬉しいです。ありがとうしかないことを心から感じ始めています。

この出来事があつた数日後、朝に姑は静かに亡くなつていました。お医者さんに来ていただき、死亡通知をいただき、葬儀屋さんに電話して「直葬、無宗教、骨は持ち帰らない」。そのことを夫は電話で葬儀屋さんに告げました。本当に簡単なやり取りでした。

次の朝、夫と私と姑と三人で車に乗つて斎場に行きました。三人で家を出てから一時間もかからないですべてが終わり、家に帰りました。帰りの車の中で、心からおばあちゃんを思いました。ありがとうの思いが溢れて、夫にもありがとうの思い

でいっぱいになりました。

とても爽やかで軽やかな葬儀でした。夫も同じことを思ったと話してくれました。宇宙の風を感じました。

私がこの学びに出会つたのは、兄の突然の死がきっかけでした。その時の葬儀を思い出しました。とてもとても重苦しく、いつまでもいつまでも重苦しい心を引きずり続けた自分を思い出し、その時にどれ程の心を使つたか、改めて宗教のエネルギーのすごさに気が付きました。

おばあちゃん、こんなにも軽やかで、爽やかな葬儀をありがとうございました。おばあちゃんが肺炎になつた時に亡くなつてしまつていたら、自分の凄まじいエネルギーを知ることができなかつたと、振り返ります。肺炎を克服してから亡くなる

までの時間が、私達にとつて本当に最高の大切な時間でした。待つて待つて待ち続けてくれていたことを感じました。夫にも、心からありがとうの思いが溢れてきました。今も、その時のことを思い出すと、涙が溢れます。その後、『愛と死の真実』などの本を読み返しました。一冊一冊、本当にすごい本です。今、私の手元にあることを心から感謝の思いでいっぱいです。田池先生が言っていた通りでした。全部、素通りでした。ホームページも断片的にしか読んでいませんでした。「宇宙の風」のホームページを、全部、通して読ませていただきました。小さな中で一人相撲を取りながら学んでいた自分を感じます。大きな流れの中にある私達であることを伝えてくれています。

どれほど献身的に介護をしたとしても、仕事をしているのは波動でした。姑はそのことをしつかりと私に教えてくれました。自分の凄まじいエネルギーに出会ってから、自分を受け止めていくことの大切さを、どんどん感じていきます。凄まじい自分の中のエネルギーに出会えることを喜んでいきます。今は、姑と暮した六年半を振り返る時間をいただいています。夫も「母がここまで長生きして、我々の学びのために、色々と最後まで演じてくれて、本当にありがとうしかないね」と話してくれました。嬉しいです。

田池留吉の肉に出会い、心を見ることを学べたこと、本当に幸せでした。そして、本を出版してくださった方々にも、心から感謝の思いです。自分に優しくなっていくます。あり

がとうございました。

■感想文

★「UTA会の幹事の皆様へ」

楽しみに待っていた一回目の会報誌が、今日届きました。ありがとうございます。ございました。

早速、目を通し始めると、どんどん嬉しさが込み上がってきました。読んでいる間も私の意識の中で色々な動きがありました。途中で瞑想状態に入って、懺悔になったり、自分の中からのメッセージがあつたり、ずつと涙が止まりません。数回繰り返し読みました。今も涙が止まらないので泣きながらこれを打っています。

会報誌ということで、受け取る前は少し軽く考えていたのですが、大反省です。

今はもう、みんなそれぞれ自分で学びを進めていく時期に来ていると思いますが、こうやってUT A会でセミナーを開いてくださったたり、本、CD、会報誌等を送ってくださったたりと、軌道修正の機会を与えていただいていることに対して、本当にいっぱい感謝です。普段お礼をお伝えすることはほとんどないので、この機会にと思い、メールを送らせていただきました。嬉しさが溢れてきて言葉になりきれませんのでこれだけにしますが、これからも田池先生がお元気なうちは、いろいろお世話になると思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

本当に、いつもありがとうございます。

また、他の会員の皆様からも次のようなメールを頂きました。

★本日冊子『あなたの意識ではありませんか、参考にしてください第一巻』一冊、CD『正しい瞑想を続けましょう』一本が手元に届きました。

手に取り、うれしく感じております。

心を見ていく励みになります。

ありがとうございます。

また、新刊本『あなた、このまま死んでいっていいのでしょうか』が届くのを楽しみにしております。

★いつもお世話になっております。CDと『第二の人生』の本もありがとうございます。

とても嬉しく思いました。大切に読みたいと思っています。本当にありがとうございます。

★UT A会だよりに「何かお気づきのことがありましたら：」とありましたので、僭越ながらメールさせていただきます。セミナーの日程についてですが、義務教育期間中の子供とその保育者も参加できるようにお願いしたいです。準会員として登録されるなら、夏休み、冬休み、春休みに重なって、日程が設定さればと思うのですが。

再来年、もしセミナーが開催されるなら、そのこと、お願いしたいです。

(ホテルの空き状況など、何も分からない状態で申していることで、もし十分考慮されたうえで、この日程になっていたのでしたら、申し訳ございません。)

この件につきましては、今年度はホテルの都合もあり、就学児童の参加できる日程が取れませんでした。

就学児童をお持ちの方々にはご迷惑をおかけして、申し訳ございません。

夏休み、冬休み、春休み等の時期は、特にホテルに空きがなく、多人数で貸し切りに近いUTA会は、なかなかこちらの思うようには日程が取れない状況です。

今後も引き続き、ホテルとの交渉を続けていきますので、ご理解いただきたいと思います。

【体験談・感想文の募集】

UTA会では、体験談やUTAブックから出版されている本を読んでの感想文などを募集しています。

頂いた原稿は、このコーナーで紹介していく予定です。

原稿は、下記UTA会の原稿受付専用メールアドレスまで、Eメール、またはEメールの添付として送っていただければ助かります。

原稿受付専用メールアドレス：info@utakai.net

【メッセージの募集】

また、UTA会のホームページでも案内していますが、UTA会では毎回テーマを設け、日々の瞑想を通して皆様が受けたメッセージや、そのときの感想をお寄せいただき、同じくこのコーナーで発表していきたいと考えています。

現在のテーマは、UTA会のホームページでご確認ください。

文字数は1000字前後で、お願いいたします。体験談や感想文と同じく、原稿受付専用メールアドレスまで、Eメールでお送りください。

たくさんのご応募、お待ちしております。

■メッセージ（U T A 会のホームページに『私はあなた、あなたは私、ひとつ』と題して、二〇〇九年四月一日から二〇〇九年六月一日までに掲載されたメッセージです）

一、皆さん、瞑想会はどうでしたでしょうか。嬉しかった人も、いまいの人も、ぜひ、自分のこれからに活用していただくさい。

私は、過去からの自分を見つめながら、二五〇年後の自分を見つめながら、そして、それらの時間もひとつの通過点として歩いていく幸せ、喜びを心に感じながら、瞑想会という時を通過させていただきました。さて、今月の中旬頃から、「あなたの意識です」のコーナーが始まります。私は、私の勉強として、田池留

吉に心を合わせる勉強をさせていた
できます。

どうぞ、あなたも、田池留吉に心を向けていく中で、つまり、瞑想を重ねた上で、申し込みをお願いし
ます。

おそらく、あなたの心に響いてい
くはずです。ともに学ばせていただ
くことを楽しみに待っています。

（※この申し込みは現在行われてい
ません）

二、最後は瞑想、瞑想を重ねること
によって、それしかないと感じるで
しょう。

思いは、もうすでに、二五〇年後
を見つめています。

どうぞ、瞑想を重ねることによつ
て、意識の流れを心に感じていつ

ください。

私達は意識です。そして意識はひ
とつです。

意識の流れは、次元移行を、はっ
きりと伝えてきます。

自分に誠実であることです。焦つ
たり、あきらめたり、すねたり、ひ
がんだりするのは、自分に申し訳な
いです。

今という時を与えられているこ
と、それは喜びです。

過去からの自分が心に響いてくれ
ば、まさに納得です。

三、異語は、呪文でもおまじないで
ありません。

異語は波動です。異語は、肉を交
えないから素直です。黒は黒、白は
白の意識の世界を素直に語ります。

瞑想の中で、異語で自分を語りな

さい。瞑想をする時間が楽しくなります。また、周りに異語を交わす人があるならば、短い時間でもいい、異語で語る時間を持ってください。自分の心が出てきます。それをしっかりと見つめ、また自分の勉強の参考にすればいいと思います。

異語は波動、そして異語はあなたです。

四、自己供養、お分かりですね。どんどんそれをやっていってください。

間違ってきた自分、狂ってきた自分、その出会いが何よりの楽しみです。

苦しみではなくて、楽しみです。

自分の中のエネルギーを知れば知るほど、真実が自分の中で見えてき

ます。

狂ってきた自分であればこそ、自分の中の真実の扉を開いていこうとするエネルギーを感じるのです。

それが正しい瞑想です。瞑想は修行ではありません。

五、田池留吉という肉があってもなくても、何時でも出会える、瞑想をして、正しい瞑想を続けて、そういう状態に、自分を近づけていってください。

自分の中をそのような状態にしておけば、日常の中で、何かがあっても、ふっと目を閉じて、そこへ自分を戻せるからです。

ただ、肉が肉の流れの中にあるだけで、自分はその流れの中にないことが、はっきりと感じられるように

なつてごらん下さい。

肉の流れがストップしても、自分の流れは止まらない、そのような中に自分はあることが、心で分つてくると、こんな喜び、幸せはありません。

六、人間は、何も持たずに、何も持たずに死んでいく、切なる思いを表現できなければ、失意のうちはこの世を去っていく、意識の世界の真実、そしてその意識の世界だけが唯一の世界、そんなメッセージが心に上がってきました。その思いを、一冊の本にまとめてみました。

ぜひ読んでください。

そして、瞑想を続けてください。

自分が生まれてきた意味、今肉を持っている意味、どうぞ、自分の中で思ってみてください。真摯な思い

で、自分に誠実に思ってください。自分にありがとうと言って死ぬる、そんな時間を重ねていってください。

七、人間は、みんな真っ黒です。その意識の世界は真っ黒です。

本質を知らない意識は真っ黒です。

学びに繋がったから、どうということはありません。

ただ、自分の決意があっただけです。自分に目覚めていこう、本質に少しでも近づいていこうとする決意があっただからこそ、セミナー会場という場集えたのです。

だから、喜びだけです。真っ黒が暴露されて嬉しい、そんなの当たり前です。何も分からなかった、無知

だった、だから、今、学んでいるのです。

こんなチャンスは、もう巡ってきません。

なぜ、今世、セミナーがあつたのか。その時間と空間を堪能してきた私には、痛いほど分かります。これをなくして、今の私はあり得なかつたからです。

八、UT A会では、そうですね、いい友達を作ることです。

本当にこの学びをやっているとお友達、教祖や信者の関係ではなくて、それぞれのこれからの何かプラスになるような、そんな友との交流を通して、少しでも真実の方向に心を向けていくことができばいいと思います。

欲得で、そして、いつまでもぶら下がり状態では、決して正しい道は歩めません。

日々瞑想を続けて、そして、無理することなく、UT A会、同窓会に集ってください。UT A会を楽しんでいきましょう。

九、UT A会には、体験発表の時間があるようですので、どうぞ、ご自分が体験なさったことで、何かそこから、こんなことに気付きました、感じました、学びましたという話を聞かせていただければと思います。

話し方の上手い、下手は関係がないと思います。

そこからその人の思いが、この学びに対する思い、自分に対する思い、そういうものが、伝わってくると思

います。

U T A 会は、みんなで作り上げていくものです。

この学びに繋がって、そして、今、こんなことを感じて幸せですという思いを、互いに話し合える場として、活用していきませんか。

一〇、どんなに他力の思いが強くても、学びに触れ、それなりの時間を経てきた人は、これからの転生の中で、必ず、真実の方向に自分を向けていこうとします。だから、厳しいです。しかし、自分の中は知っているのです。

だからこそ、他力を重ね、間違ってきた道をどんどん進んでしまったのです。それは、真実の方向を探し求めている自分の姿でした。

そのように、自分を見ていつてく
ださい。

そびえ立つのではなくて、自分を
大切にしていきましょう。本当の自
分の思いに素直になっ
ていきましょ
う。

一一、「あなたの意識です」は、まさ
に、あなたの勉強です。私とあなた
がひとつになっ
て勉強をしていま
す。

私は、言葉を聞いているのではな
くて、思いを、意識を感じています。
それが私の勉強です。私としては、
それでいいのだけれど、せっかく学
びに繋がったのだから、学びの方向
に心を正しく向けていかれたらとい
う思いが出てきて、ついついコメン
トをしたくなります。

これもまた私の勉強でしょう。そ

して、それを聞いて、どのような思
いが出てくるか、あなたの勉強を進
めていつてく
ださい。

一二、瞑想をして心に強く感じるこ
とは、やはり自分の決意です。

真実に出会い、それを自分の中で
確実なものとしていくために、その
ためだけに肉の時間を用意する、私
の決意は強いことを感じます。

肉の喜びと幸せが何であるのか、
そういうものを嫌というほど求めて
きて、結局は、無念のうちに肉を捨
てていかなければならなかった過去
を振り返り、それを教訓にして、私
は、今の時間を、そして、二五〇年
後の時間を自分に用意していること
を、はっきりと感じます。

私は、自分が愛しいです。愚かな

自分を見捨てずに、今という時間を迎えていること、本当に自分に感謝です。宇宙をこよなく愛してきた自分だったことを、今、改めて感じ、我が喜びの道をひたすらに歩み続けます。

一三、目を閉じて、正しい瞑想ができるようになりさえすれば、何の心配もありません。目にし、耳にすること、人の言動は、そうできるように、自らを引導していくものに過ぎません。

正しい方向に心を向けて、心で感じたものだけを自分のこれからの指針にするようにしていきましょう。

形のない世界、私達はそこに生きています。意識の世界にある私達は、その世界が苦しみであるならば、自

分は苦しみ、本当に単純明快です。

形の世界では、自分は癒されない。癒されているという感覚は、やがて、錯覚だということが分かります。

一四、どんなに頭を巡らせても、分かるものではありません。真実の世界は、そういうものです。真実の世界は、あなたの心で感じていく世界です。

偽装の世界ならば、頭を巡らせて、試行錯誤を重ね、ある程度努力すれば、それなりの結果が得られます。

しかし、真実の世界は、そういうことは全くないです。

少しは、気持ちが軽くなるとか、楽になるとか、そういうことはあっても、真実の世界に触れていくということは、そういうことではないの

です。

待つて、待つて、待ち続けてきたことが、ようやく現実のものになった感覚というものは、まさに、自分の心で体験をしなければ分からないでしょう。

それが、二五〇年後に至る道筋だから、それぞれに大変な転生です。

しかし、どうぞ、二五〇年後に集ってください、そして、どうぞ、ともに、次元移行を果たしてまいりましょう、そこから、私は、思いを発しています。今、理解できなければそれもよし、今、分からなければそれもよしです。

いずれ、心で感じる時もやってくるでしょう。すべては、自分が選んでいくことです。

一五、人はなぜ生まれてくるのか、

何をするために生まれてくるのか、瞑想を続けていけば、自ずと答えは出てくるはずです。

自分の価値基準が、自然に変わっていくはずです。

自分の生き方、身の振り方が定まってきました。中の思いと肉の思いが一致してくるのです。もちろん、肉体細胞に対する思いも変わってきます。

瞑想の効果は、そういうところから、感じていくことができると思います。

肉あればこそその学びです。さらに、体力と気力の充実は不可欠です。そして、そういう時期というのは、人生の時間の中で限られていると思いませんか。

あなたは、なぜ、瞑想をしているのですか。なぜ、瞑想をしようと思

うのですか。瞑想が楽しい、瞑想が嬉しい人はいいとして、瞑想が退屈な人、一度、自分で答えてみてください。

そこに、何か瞑想を継続していくヒントがあると思います。

せっかく学びに繋がったのだから、体力と気力が充実している間に、学びの基礎を自分の中で確立させるために、それぞれ工夫をしていくください。

一六、みんな、それぞれの転生で作ってきた世界がありました。そして、今世、学びに触れた人達は、みんな初めて、真実の世界を知る機会を得ました。

この二点は、みんなに共通です。しかし、学びの姿勢、学びの進み

方に差異があるのは、決意の深さと、それに伴う田池留吉に懸ける思いの強さでしょう。

他力の神々に懸けてきた失敗の数々から、なかなか、自分を懸けることができない状態になってしまった自分が、それぞれの心にあります。自分を預けて、自分を任せて破滅していった過去の歴史が、真実の世界に入っていくことを、遮っていると言っても過言ではないでしょう。

田池留吉に心を合わせるということは、自分を預けることに他なりません。

自分のすべてを預ける、これは、欲得では決してできるものではありません。またそうならなければ、ひとつの世界は分らないのです。

一七、私は、今世、アルバートに出会うために生まれてきたことを、本当に心で知っています。そのために、すべてを整えてきたことを知っています。

だから、濁流に流れながらも、流されない生き方を自分の中で確立しています。そういう生き方ができるように、周りが整っていることに感謝していると、それは、意識の流れが、肉を持たせたという証だとも感じています。

肉は何も特別なものは持ち合わせていないけれど、私には、何かしらそういうことが感じられるのです。

その思いが、おそらく、この肉を使って、これからも仕事をしていくと思います。肉を、そこに集中させていく時期は、もうそう遠くないことを感じています。

一八、「あなたの意識です」のホームページで、学習していただきたいことがあります。

大抵は、自分の現状を知りたいということですが、それは、真つ黒に違いないのです。

それよりも、この機会に、あなたの中の必死な思いを、それぞれがそれぞれの心で感じていってください。

必死になって生まれてきた思い、その切なる思いが、どれだけこれから、あなたの心に響いていくのか、それが大きな課題だと思います。

切なる思いを、心にどんな感じていけば、もう自分のこれからなすべきことが、心に見えてくる、その方向に肉を動かす、エネルギーを傾けていく、自然にそうやっていくでしょう。

一九、心を見ていけば、幸せを感じます。喜びを感じます。

心待ちしていた自分を感じるからです。私は、それを切なる思いと表現させていただきました。

切なる思いが、あなた、このまま死んでいいのでしょうかと、問いかけました。

そして、切なる思いは、一度きりの人生でしょうかと、問いかけていくと思います。

どうぞ、あなたの心の叫びとして、いっしょに聞いてください。

切なる思いを、あなたの中心に据えていっていただきたいと思います。

二〇、本当のことを自分の中で確立するのは、確かに時間を要します。

みんなそれに背いて生きてきた過去があるからです。そして、その自覚もないまま、今に至っている意識が殆どです。

そういう中において、学びを知ったことは、自分自身にとつて、本当に貴重な出来事です。さらに、それを心で知ることができれば、もう幸せ、喜びは滞りなく自分のもとに届けられます。だから、ああ、このまま存在していけばいいんだなあと感じてきます。

それまでは、試行錯誤の苦しみが続くでしょう。心で知る、そして、さらに知る、そこへ行き着くまでが大変なのです。

二一、皆さん、お元気ですか。こちら、今、マスクをしている人達を、

多く見受け、何だか異様な光景です。その影響で、UTA会も、日延べになりました。少し残念ですが、仕方がありません。

今月には、新刊も出ますので、どうぞ、読んでみてください。率直な感想を聞かせていただければ嬉しいです。

ところで、今回のことで、私は、今世の学びの終焉ということを、ふつと感じました。これまでも、今世の学びはすでに終了したことを何度か言ってきましたが、それが、何かに表れてきたことを感じ、やはりそうだなあと思っています。

もちろん、学びは継続し、また進化もしていきます。それは、それぞれに委ねられていくということで、継続し、進化していくのだという感じがします。その中には、学びから

離れる人もあるだろうし、道筋が曲がっていくこともあり得るでしょう。とにかく、色々な局面が展開されていくでしょう。自己選択、自己責任、これから、このことが、さらに顕著になっていくと、私は思います。

二二、私は、今、文字通り、アルバートとともに真つ直ぐに道を歩いています。

これから、二五〇年、三〇〇年、そして次元移行へと続く道筋、肉で表現すれば、それはまさに、アルバートとともに歩く道筋ということになります。

本来は、波動の世界だから、何もアルバートとともにという言葉を出さなくてもいいけれど、それでは、今の学習が成り立ちません。

今は、言葉を添えて学習する段階です。「あなたの意識です」というコーナ―も、本当は、あの異語のところ、すべてが集約されているのです。

異語で意識を通じ合わせている作業が、「あなたの意識です」の学習なんです。私は、そのようにして、田池留吉、アルバートの意識とともに学んでいます。

二三、自分で気付く、それが大変重要です。たとえば、田池留吉の肉を通して、色々なアドバイスを受けたとしても、自分の心で気付き、自分の心からそうだという促しがなければ、どんなに的確なアドバイスであっても、すべて右から左です。

それほど、みんな己が偉いし、他力の中に生き続けてきたという証拠

です。

自分で気付き、自分でそうだと思います。例えば、自ずと、それは形となつてきます。まず、自分に優しくなります。

自分にとって、今、何が一番大切なことなのか、はつきりと心に浮かび上がってくるから、その思いが肉を動かすのです。

学びのポイントを外している人が多いです。今一度、それぞれに点検なさってはいかがでしょうか。

二四、1+2=3、着実にこの法則が、皆さんのもとに届けられます。

宇宙は、1+2=3の流れの中にあります。私達は、1+2=3の流れの中にあります。ただそれを、肉の思いが、阻止しているのです。

宇宙は、1+2=3であり、私達

は、1+2=3だと確信するために、肉を持ってきた、この明確な目的を自分の心で知ることがなければ、学びに触れた喜びも、やがては色褪せてきます。

せつせとセミナーに通ったことも、ただ、懐かしい思い出というところに落ち着いていきます。肉とは、肉の思いとはそういうものです。

そのことを充分踏まえた上で、学ぶ人は、本当に学んでいってください。い。

1+2=3の法則をどのように受けていくか、喜びの中を歩んでいくのか、それとも苦しみで沈んでいくのか、楽しい時間となりそうです。

二五、皆さんの手元に、『あなた、このまま死んでいっていいのでしょ

か』という題名の本が届いていると思います。

特に、その中のP. 154からP. 158を心で読んでください。

今という時を外しては学ぶことはできない、私は、その思いですっきりしてきました。私は、満を持して学びに入ってきたことを感じています。そして、今世において、二五〇年後に繋ぐ結果を出すべく生まれてきたことを、私は、すでに確認済みです。また、その結果もすでに出ています。あとは、自分の中で、淡々と時を過ぎさせていけばいいという今です。

特別に何の変化もない毎日だけど、私は、肉も幸せな環境にあります。私は本当に幸せなのです。それは、自分の中の切なる思いを、しっかりと感じているからだと思います。

二六、自己選択と自己責任、意識の世界、真実の世界は、まさにこの通りです。1+2=3、だから、誰にでも分かる世界なのでしょう。

すべての現象は、1+2=3の軌道に乗せるために起こってくるものであること、その現象の中で苦痛を感じるならば、自分のこれまでが間違ってきたことを認め、では、そこから何をどうしていけばいいのかを自分の中で確認して、確認した方向に、速やかに行動を起こしていけば、やがて、またそこから、自分に自分が教えてくれる、この作業を淡々と繰り返していくことが、自分を信じることです。1+2=3の世界にある自分を信じる信が深くなっていきます。

しかし、他力のエネルギーは、そ

れを遮ります。だから、その遮っているエネルギーを、自分の中で見つけていかなければなりません。それは、頭では分かっているけれど、心がままたまらない、他力の中にすっぱりとは、こういうことを言うのではないのでしょうか。



《U T A会からのお知らせ》

●U T A会状況とお知らせ

1) 2010年度U T A会の4月14日現在の会員数は以下の通りです。

- ・正会員 833名(海外在住者22名含む)
- ・準会員 40名(海外在住者3名含む)

2) 2009年11月以降に発送したもの

2009年

- 11月 冊子「あなたの意識ではありませんか…第3巻」
新刊本「お母さん、ごめんなさい」本田せつ子著

2010年

- 2月 冊子「あなたの意識ではありませんか…第4巻」

3) 今年度の予定

4月 冊子「宇宙の風—宇宙からのメッセージ— 第1巻」(発送済)

5月 機関誌「U T A会だより第2号」発送

本「意識の流れ 増補改訂版」田池留吉・塩川香世 発送

第3回U T A会開催(9日～11日)

6月 冊子「宇宙の風—宇宙からのメッセージ— 第2巻」発送

8月 冊子「あなたの意識です。第1巻」発送

9月 第4回U T A会開催(12日～14日)

10月 冊子「あなたの意識です。第2巻」発送

11月 機関誌「U T A会だより第3号」発送

12月 第5回U T A会開催(19日～21日)

2011年

1月 冊子「あなたの意識です。第3巻」発送

※ 予定ですので、変更になる場合もあります。また、この他に、新刊本が2～3冊発行される予定です。そして、その新刊本の図書館や視覚障害者施設への寄贈も予定されています。

※ ホームページに掲載された「Message from Taike Tomekichi.」を、時期は未定ですが、冊子にすることを予定しています。

4) U T A会セミナーの音声ファイルCDについて

U T A会のセミナーでは、毎回セミナーの内容を録音したCDを製作しています。

そのCDの配布形式が変更になったことを、まだご存じでない方がおられるのではないかと思いますので、ご案内させていただきます。

第1回U T A会の音声ファイルCDは、正会員の方全員にお配りいたしましたが、第2回U T A会からは、セミナーに宿泊で参加された大人の方にのみにお配りすることに

変更いたしました。また、配布の対象者ではない前日泊のみの方やセミナーに参加されなかった方々へは、販売の形態を取らせていただきます。

配布対象者以外で音声ファイル CD を希望される場合は、その当該セミナーの終了後 1 週間以内に、U T A 会のホームページよりお申し込みください。その数を集計し、製作に取り掛かりますので、期間はお守りください。

お支払いは、発送する CD に郵便局の振替払込書を同封いたしますので、そちらにてお振り込みをお願いいたします。CD 1 枚は、郵送料・消費税込みで 500 円です。

在庫を持たないようにするために、このようにしていますので、その旨、予めご了承ください。

5) 2009 年度 U T A 会 会計報告

(2009 年 4 月 1 日～ 2010 年 3 月 31 日)

収入の部	収入	支出	残高
正会員 年会費 869 名分	8,596,000		
正会員 退会による返金 10 名分		71,000	
会費二重払い、その他の過入金及び、返金	43,000	43,000	
小 計	8,639,000	114,000	8,525,000
支出の部	収入	支出	残高
[正会員への配布物] 本 3 冊、冊子 4 冊、CD 2 本、機関誌 1 冊の 制作費、及び発送費		4,641,705	
[図書館、及び視覚障害者施設への寄贈] 本 2 冊 (1577 館)、音訳 CD 2 本 (200 館) の 制作費、及び発送費		1,501,370	
[運営経費] ホームページ運用、通信費、発送費、 事務用品費、人件費等		730,642	
小 計		6,873,717	
2009 年度 U T A 会 経費合計残高	収入	支出	残高
収入の部 合計	8,639,000		
支出の部 合計		6,987,717	
合 計	8,639,000	6,987,717	1,651,283

※ 残高は、2010 年度に繰り越します。

(単位：円)

●U T A会セミナーのご案内

第3回U T A会より、U T A会セミナーへの参加条件が変更になりました。以前は、U T A会の会員でない方も参加することができていましたが、第3回U T A会セミナーより、同窓会という本来の目的に戻して、U T A会の会員の方のみの参加に限らせていただいています。

但し、今までに開催されたセミナー、勉強会、及び、U T A会セミナーに1度も参加されたことがない初めての方は、U T A会セミナーにご参加いただくことができます。

それと同時に、同室希望の条件も変更させていただきました。同室にできる条件を、病気の方や介護が必要な方とそのお世話をされる方、また、小さなお子様のいるご家族の方のみに限らせていただきました。

このように変更させていただいていますこと、今後も引き続き、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

1. 開催日時と場所（遠方から参加される方のために、前日泊も設けています）

①開催日程

◆第3回U T A会 2010年5月9日（日）～11日（火） 参加人数800名 2010年5月8日（土）前日泊 参加人数300名
◆第4回U T A会 2010年9月12日（日）～14日（火） 参加人数800名 2010年9月11日（土）前日泊 参加人数300名 12日（日）13:30～17:00（12:00開場） 13日（月）10:00～17:00 14日（火）10:00～12:00（会場は14:30まで使用できます） 【申込受付期間】 2010年7月26日（月）～8月23日（月） 【キャンセル連絡日】 2010年8月27日（金）
◆第5回U T A会 2010年12月19日（日）～21日（火） 参加人数800名 2010年12月18日（土）前日泊 参加人数300名 19日（日）13:30～17:00（12:00開場） 20日（月）10:00～17:00 21日（火）10:00～12:00（会場は14:30まで使用できます） 【申込受付期間】 2010年11月1日（月）～29日（月） 【キャンセル連絡日】 2010年12月3日（金）

② 会場 琵琶湖グランドホテル

〒 520-0101 滋賀県大津市雄琴 6-5-1 / TEL 0775-79-2111

2. 参加申込日程と参加料金

申込日程		会員料金
前日泊	夕食・朝食付	10,500円
前日泊+全日程	3泊4日8食付	30,500円
前日泊+前半1泊	2泊3日5食付	20,500円
全日程	2泊3日6食付	20,000円
前半1泊/後半1泊	1泊2日3食付	10,000円

※ 初めて参加される方の参加料は、会員と同じです。

※ 小学生、幼児は別料金になりますので、ホームページをご参照ください。

※ 料金には、セミナー会場使用料も含まれています。

3. 申込方法について

① 申込期間内に、お近くの郵便局に備え付けの青い振替払込書にて、U T A会セミナー料金をお振り込みください。それで受付とさせていただきます。

② 振替払込書に、氏名、会員番号、申込日程を、必ず明記してください。布団、食事を必要としないお子様の名前、年齢も、必ず明記してください。

※ 複数名でお申し込みの場合は、それぞれの氏名、会員番号、申込日程を必ず明記してください。

※ 同室希望については、第3回U T A会より同室希望の受付条件を、病気の方や介護が必要な方とのお世話をされる方、また、小さなお子様のいるご家族の方のみに、変更させていただきました。

同室を希望される方は、お手数ですが同室希望の理由と、それぞれの氏名を、必ず明記してください。

但し、ホテルの部屋の都合上、ご希望に添えない場合がありますので、ご了承ください。

※ 初めて参加される場合は、振込払込書に、氏名、申込日程、住所、電話番号、性別、年齢、メールアドレスを明記してください。(性別、年齢等はU T A会の部屋割りに、メールアドレスは受付確認メールの送信に必要となります)

③ 振込先(振込口座番号等は、必ず確認をお願いいたします)

口座番号：01700-5-140092

加入者名：U T A会

④ 入金の確認ができ次第、U T A会受付確認のメールを送信いたします。

なお、郵便振替払込書がこちらの手元に届くまでには4日間ほどかかりますので、確認メールの到着までには、一週間ほどお待ちください。また、メールアドレスをお持ちでない方へは、ハガキにてお知らせいたします。

4. キャンセルについて

- ・キャンセルは、必ず下記の電話番号まで連絡をお願いいたします。メールではお受けできませんので、予めご了承ください。
- ・キャンセル連絡日までのキャンセル料は、無料です。
- ・キャンセル連絡日を過ぎてのキャンセル料は、総額の100%です。
- ・U T A会当日にキャンセルされる場合でも、必ず電話連絡をお願いいたします。

5. 参加についてのお願い

- ・参加のお申し込みは、必ず、期間内をお願いいたします。
- ・義務教育中のお子様の学校を休んでの参加、または幼児、小、中学生の保護者同伴なしでの参加は、ご遠慮ください。
- ・家族（夫、妻、舅、姑、子供…）に、U T A会への参加を反対されている人、または家族、職場に対して嘘をついて参加することは、ご遠慮ください。
- ・参加費用を借金してU T A会に参加することは、ご遠慮ください。
- ・ホテルや他の宿泊客に迷惑をかける人、またはU T A会の進行を妨げるような行動を取る人は、参加をご遠慮ください。
- ・参加者同士がトラブルを起こした場合、当事者間で解決が見られるまで、参加をご遠慮ください。

6. 会場ホテルへのアクセス

- ・電車をご利用の方

大阪・東京方面→JR 京都駅→JR 湖西線「おごと温泉駅」下車(JR 京都駅より20分)
→琵琶湖グランドホテル (JR おごと温泉駅よりホテルの送迎バスにて5分)

- ・自動車をご利用の方

大阪・東京方面→名神高速道路 京都東IC →西大津バイパス仰木雄琴IC →
国道161号線→琵琶湖グランドホテル (仰木雄琴ICより2分)

【連絡先】

- ・お問い合わせは、U T A会サポートまでメールをお願いいたします。
メールアドレス：support@utakai.net
- ・キャンセルの方、また、メールアドレスをお持ちでない方は、下記まで電話でご連絡ください。
幹事長 久保明子 TEL 042-771-9100

U T A会のホームページでもセミナーの案内等を掲載していますので、ぜひ、ご参照ください。

U T A会ホームページ：<http://utakai.net/utakai/index.html>

